

新緑の宇治植物公園を訪ねよう!

5月例会 (自然教室チーム担当)

日時: 5月14日(火) 10:00~13:45

参加者: 29名

幹事: 倉田、平岡

この日は前日の真夏日に続き30℃を超えよ
うかという暑さになりましたが、29名の方が
この観察会に参加していただきました。

まず午前中の1時間半程の時間で植物園の職
員の方に見どころ案内をお願いしました。

タラヨウ(字がかける葉、郵便局のシンボル
ツリー)、オトコヨウゾメ(花序が下向きに垂れ
る、乾くと花も葉も黒くなる)、サワフタギ(ル
リ色の実)、カラタネオガタマ(バニラの香りの
花)バンクシア(山火事の刺激により種がはじ
ける)等樹木



を中心に解説
してもらいま
した。
花と水のタ
ペストリーで
はジオラマやハ

ボタンなどの花材のプランターが幅6.2m高さ
1.8mの壮大な階段に並べられ、カワセミが描
かれていました。

つづいてハーブ園では、様々なラベンダーや
タイム類、カレーの匂いのするカレープラント
などいろいろなハーブを見て回りました。さら
にバラ園にも立ち寄り、丁度、昼食の時間とな
りました。

午後一番は自然教室チーム担当らしい自然観
察会となりました。自然教室チームスタッフが
ツツジの花を見て、蜜標(上方の花弁にだけあ
る斑点・昆虫に蜜の在り処を教える)があるこ
とやツツジを躑躅(てきちよく)と書く由来を
解説。中国で毒性のあるレンゲツツジを羊が誤
って食べたところ、足踏みしてもがき、うずく
まってしまったと伝えられ、このようになるこ
とを躑躅という漢字で表わしています。

そこで中国ではレンゲ
ツツジの名に躑躅を当て
ますが、日本では中国で
の名称躑躅がいつの間
かツツジ全般を指すよう
になったと考えられて
います。



そのあと、別のスタッフが年に一度枝分か
れるたびに新しい枝が必ず3本に分かれる
ことから「ミツマタ」と名付けられた中国原
産のジンチョウゲ科の落葉低木を解説。

春を告げるように、淡い黄色の花を一斉に
開くので、サキサクと万葉歌人は詠みました。

(三枝[さいぐさ、さえぐさ]という姓の語源
とされる。)

「ミツマタ」
が和紙の原料と
して表れる文献
は、徳川家康の
時代であり、そ
の後明治になって紙幣に使用されるようにな
りました。



最後は温室を職員の方の案内で見て回りました。

タビビトノキ(大きな葉が一方に向いてい
るので方位を示す、あるいは根元の所にある



水で旅人が喉を潤
したとか)、カカ
オノキ(長楕円形
で縦溝が明瞭な大
きな果実が太い幹
に直接つく。ココ
ア、チョコレート

の原料)、などの説明を受けて、不思議いっば
いの花や木や葉さらに果実を楽しむことがで
きました。

真夏のような日差しが照りつける中での観
察会となり、終了後に予定していた宇治平等
院近辺の散策希望者もなく、少々お疲れぎみ
となりましたが、新入会員の参加もあり、賑
やかで楽しい観察会ができたと思っています。

(高本 実男)